

## 6 スポーツボランティア

### 6-1 スポーツボランティアの実施率

スポーツボランティアとは、報酬を目的としないで、自分の労力・技術・時間などを提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動を意味している。

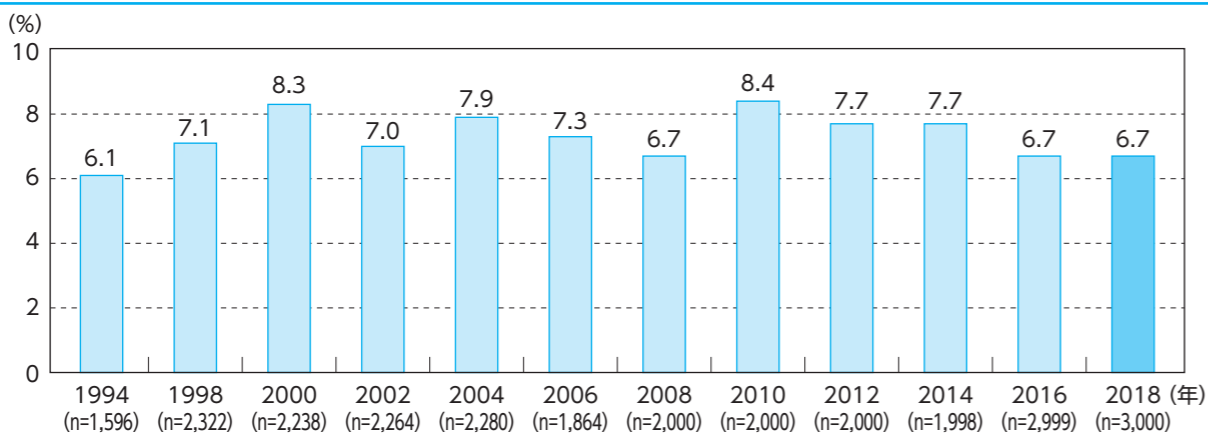
図6-1に、過去1年間にスポーツボランティアを行った者の割合を示した。2018年のスポーツボランティア実施率は6.7%で、2016年と同率であった。スポーツボランティア実施率は2010年に過去最高の8.4%となったが、その後はわずかながら減少している。今回の結果から、過去1年間のスポーツボランティア人口は710万人と推計された。

スポーツボランティア実施率を性別にみると、図6-2に

示すように男性は8.2%、女性は5.3%であり、男性の実施率が女性を2.9ポイント上回る。

図6-3には、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のスポーツボランティア実施率を示した。年代別にみると、18・19歳が9.9%と最も高く、20歳代と50歳代が7.3%と続く。60歳代のスポーツボランティア実施率は、最も低い5.3%であった。

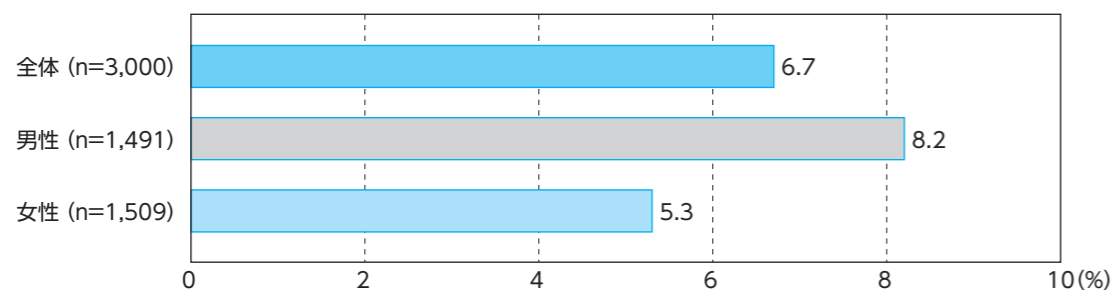
運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル4」は13.9%と最も高く、「レベル1」8.0%、「レベル2」5.6%、「レベル3」5.1%と続く。過去1年間に運動・スポーツをまったく行わなかった「レベル0」は1.3%と、運動・スポーツ実施者と比較してスポーツボランティア実施率が極端に低い。



【図6-1】スポーツボランティア実施率の年次推移

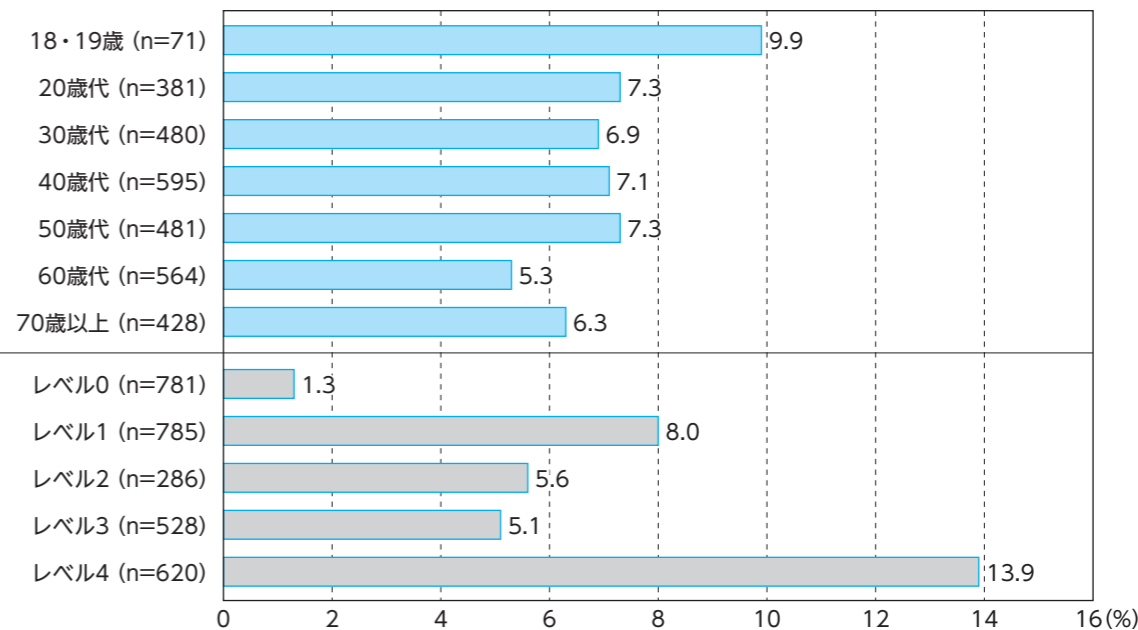
注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図6-2】スポーツボランティア実施率(全体・性別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図6-3】スポーツボランティア実施率(年代別・レベル別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

### 6-2 スポーツボランティアの実施内容

表6-1には『日常的な活動』『地域のスポーツイベント』『全国・国際的なスポーツイベント』に大別した具体的なスポーツボランティアの実施内容を示した。

全体では『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」の実施率が35.8%で最も高く、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」31.8%、「スポーツの指導」26.4%が続く。年間の平均実施回数は、『日常的な活動』の「スポーツの指導」が43.3回と最も多く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営

や世話」が25.0回、「スポーツ施設の管理の手伝い」が13.4回であった。

性別にみると、男性は『日常的な活動』の「スポーツの指導」34.4%、「スポーツの審判」33.6%、「地域のスポーツイベント」の「大会・イベントの運営や世話」31.1%、女性は『地域のスポーツイベント』の「大会・イベントの運営や世話」43.0%、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」40.5%、「スポーツの指導」13.9%の順であった。男性は指導や審判、女性は運営や世話の実施率が高い特徴がある。

【表6-1】スポーツボランティアの実施内容(全体・性別:複数回答)

スポーツボランティアの内容	全体 (n=201)		男性 (n=122)		女性 (n=79)		
	実施率 (%)	実施回数(回/年)	実施率 (%)	実施回数(回/年)	実施率 (%)	実施回数(回/年)	
日常的な活動	スポーツの指導	3位 26.4	43.3	1位 34.4	42.4	3位 13.9	46.7
	スポーツの審判	24.9	11.1	2位 33.6	12.4	11.4	5.0
	団体・クラブの運営や世話	2位 31.8	25.0	26.2	16.4	2位 40.5	33.9
	スポーツ施設の管理の手伝い	7.5	13.4	9.0	18.0	5.1	2.0
地域のスポーツイベント	スポーツの審判	18.9	8.3	23.0	9.7	12.7	4.6
	大会・イベントの運営や世話	1位 35.8	3.3	3位 31.1	3.2	1位 43.0	3.5
全国・国際的なスポーツイベント	スポーツの審判	1.0	2.5	1.6	2.5	0.0	-
	大会・イベントの運営や世話	4.5	1.4	4.9	1.0	3.8	2.3

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

## 6 スポーツボランティア

### 6-1 スポーツボランティアの実施率

スポーツボランティアとは、報酬を目的としないで、自分の労力・技術・時間などを提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動を意味している。

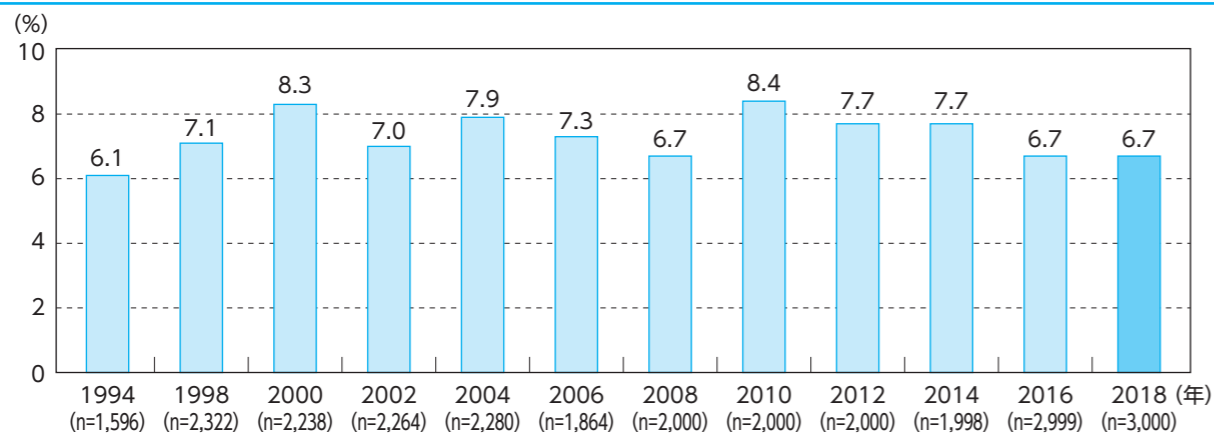
図6-1に、過去1年間にスポーツボランティアを行った者の割合を示した。2018年のスポーツボランティア実施率は6.7%で、2016年と同率であった。スポーツボランティア実施率は2010年に過去最高の8.4%となったが、その後はわずかながら減少している。今回の結果から、過去1年間のスポーツボランティア人口は711万人と推計された。

スポーツボランティア実施率を性別にみると、図6-2に

示すように男性は8.2%、女性は5.3%であり、男性の実施率が女性を2.9ポイント上回る。

図6-3には、年代別、運動・スポーツ実施レベル別のスポーツボランティア実施率を示した。年代別にみると、18・19歳が9.9%と最も高く、20歳代と50歳代が7.3%と続く。60歳代のスポーツボランティア実施率は、最も低い5.3%であった。

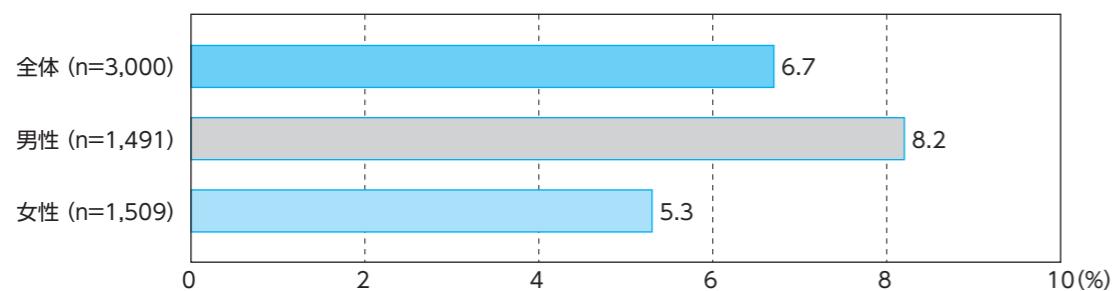
運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル4」は13.9%と最も高く、「レベル1」8.0%、「レベル2」5.6%、「レベル3」5.1%と続く。過去1年間に運動・スポーツをまったく行わなかった「レベル0」は1.3%と、運動・スポーツ実施者と比較してスポーツボランティア実施率が極端に低い。



【図6-1】スポーツボランティア実施率の年次推移

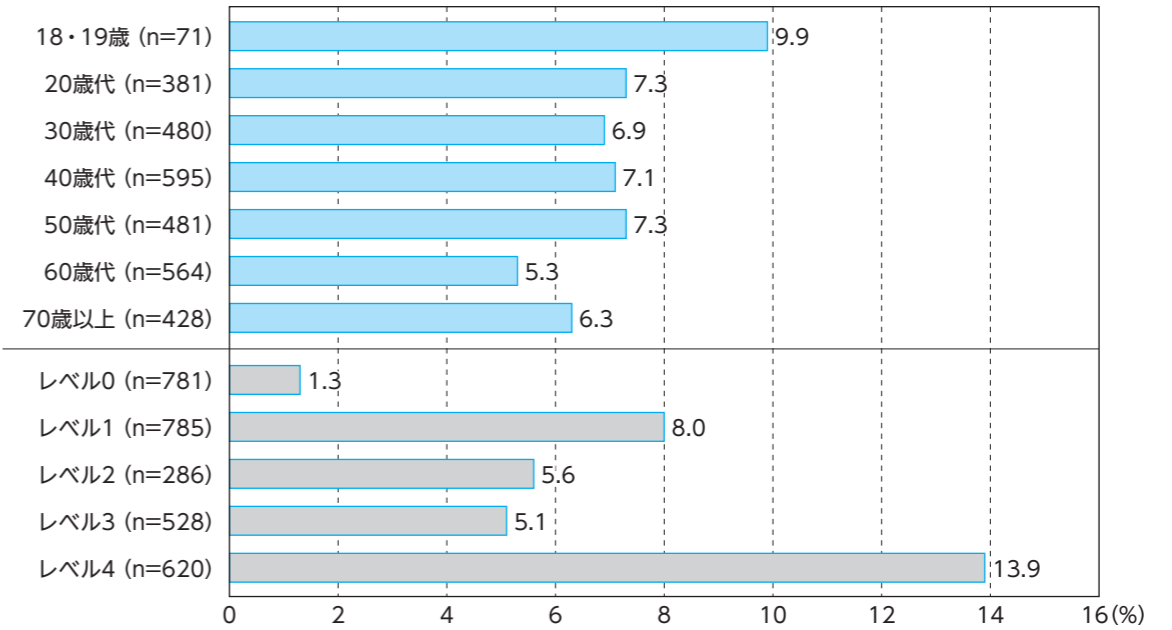
注) 2014年までは20歳以上、2016年以降は18歳以上を調査対象としている。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図6-2】スポーツボランティア実施率(全体・性別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018



【図6-3】スポーツボランティア実施率(年代別・レベル別)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

### 6-2 スポーツボランティアの実施内容

表6-1には『日常的な活動』『地域のスポーツイベント』『全国・国際的なスポーツイベント』に大別した具体的なスポーツボランティアの実施内容を示した。

全体では『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」の実施率が35.8%で最も高く、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」31.8%、「スポーツの指導」26.4%が続く。年間の平均実施回数は、『日常的な活動』の「スポーツの指導」が43.3回と最も多く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営

や世話」が25.0回、「スポーツ施設の管理の手伝い」が13.4回であった。

性別にみると、男性は『日常的な活動』の「スポーツの指導」34.4%、「スポーツの審判」33.6%、「地域のスポーツイベント」の「大会・イベントの運営や世話」31.1%、女性は『地域のスポーツイベント』の「大会・イベントの運営や世話」43.0%、『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」40.5%、「スポーツの指導」13.9%の順であった。男性は指導や審判、女性は運営や世話の実施率が高い特徴がある。

【表6-1】スポーツボランティアの実施内容(全体・性別:複数回答)

スポーツボランティアの内容	全体 (n=201)		男性 (n=122)		女性 (n=79)		
	実施率 (%)	実施回数(回/年)	実施率 (%)	実施回数(回/年)	実施率 (%)	実施回数(回/年)	
日常的な活動	スポーツの指導	3位 26.4	43.3	1位 34.4	42.4	3位 13.9	46.7
	スポーツの審判	24.9	11.1	2位 33.6	12.4	11.4	5.0
	団体・クラブの運営や世話	2位 31.8	25.0	26.2	16.4	2位 40.5	33.9
	スポーツ施設の管理の手伝い	7.5	13.4	9.0	18.0	5.1	2.0
地域のスポーツイベント	スポーツの審判	18.9	8.3	23.0	9.7	12.7	4.6
	大会・イベントの運営や世話	1位 35.8	3.3	3位 31.1	3.2	1位 43.0	3.5
全国・国際的なスポーツイベント	スポーツの審判	1.0	2.5	1.6	2.5	0.0	-
	大会・イベントの運営や世話	4.5	1.4	4.9	1.0	3.8	2.3

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018